

○8番（平山晶邦議員） 平山晶邦です。通告に従いまして一般質問を行います。

現在の常陸太田市のさまざまな計画の基本となっているのが、2015年作成の人口ビジョンであります。今回の質問をする常陸太田市まち・ひと・しごと創生総合戦略や常陸太田市公共施設等総合管理計画（案）も計画の基礎となっているのが人口ビジョンであります。この人口ビジョンで提示されている内容は、私は大変よく分析されているという評価をしております。人口の現状分析から、将来人口の推計と分析を行い、人口推計や財政推計から人口の変化が地域の将来に与える影響の分析をして、そして人口の将来展望の現状の課題の整理と、常陸太田市が目指すべき将来の方向などを提示しています。

40年後の常陸太田市は、現在の5万1,200人から1万8,270人になると推計しています。水府地区は4,460人が770人になり、里美地区は現在の3,060人が830人、金砂郷地区は現在の9,670人が3,240人になり、常陸太田地区も現在の3万4,000人から1万3,400人になると予想をしています。この将来の人口変化の中で私が注目したのは、現在里美地区は水府地区より1,400人少ない人口であります、それが逆転するという事です。これはなぜなのかと、もっと細かい分析と検証をする必要があるというふうに思っております。

人口ビジョン、あと少しこの内容に欲を言えば、常陸太田市は面積が広いので、人口変化から地区ごとの分析と、地区が抱えている課題の抽出と、地区別の目指すべき将来方向をお示しただけなら、もっとよいものになったのかなという思いも持っております。しかしここで示された常陸太田市が目指すべき将来の方向は、間違いのない提案であると確信をしております。常陸太田市の将来に対応すべく、そして持続可能な常陸太田市をつくるべく、施策をこれからも行っていただきたいと思っております。そのことを前段で申し上げ質問に入ります。

第1の質問として、常陸太田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取り組みについてご質問をいたします。

まち・ひと・しごと創生総合戦略は、2015年度から2019年度までの5年間で4つの基本目標を掲げ、重要目標達成指標は、2020年に常住人口5万人、年間出生数300人を目指しているものであります。4つの基本目標は、1つとして「本市の特性を活かした産業振興と安定した雇用の場を創出する」、2つとして「本市の新しい人の流れをつくる」、3つとして「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」、4つとして「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」。私は、この4つの基本目標は、本市の課題を的確に捉えている目標であると思えます。

2017年は、常陸太田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の折り返しの年度になりますので、執行部においても基本目標の課題への取り組みや反省もあると思えます。そこで基本目標それぞれに対する実績や課題や今後の取り組みについてお伺いをいたします。

1点目として、「本市の特性を活かした産業振興と安定した雇用の場を創出する」、この目標の現状と課題、今後の進め方についてお伺いをいたします。

2点目として、「本市への新しい人の流れをつくる」、この目標の現状と課題と今後の進め方についてお伺いをいたします。

3点目として、「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」、この目標の現状と課題と今後の進め方についてお伺いをいたします。

4点目として、「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」、この目標の現状と課題と今後の進め方についてお伺いをいたします。

5点目として、この総合戦略の進行管理は、四半期ごとに各展開事業の実施状況と実施課題、継続の適否、改善事項などを整理し、事務事業評価によって外部有識者による検証・検討を行うとなっておりますが、その状況と実績、検証・検討結果は、どのような内容なのかについてお伺いをいたします。

以上が第1の質問であります。

第2の質問として、常陸太田市公共施設等総合管理計画（案）についてお伺いをいたします。

常陸太田市公共施設等総合管理計画は、2017年から40年間の2056年を対象とする大変長期間の計画ですが、5年ごとに検証、見直しを行いながら進めるようであります。公共施設を建物系施設とインフラ系施設に分けて、現状及び将来の見通しを市民に提示することは大切なことであると考えます。そこで公共施設等総合管理計画の計画的な取り組みの推進について伺います。

1点目として、都市計画マスタープランや過疎地域自立促進計画等のまちづくりの計画と、施設分類ごとのサービスの特性を踏まえて、施設の集約再編や再配置について、全庁で共有する基本的な方針とはどのようにお考えになっているのかをお伺いをいたします。

2点目として、公共施設等総合管理計画は、施設分類で示されることも重要であります。地区別に人口動向や社会経済情勢の変化を的確に捉えて、例えば私が住んでいる金砂郷地区は、金砂郷地区の公共施設がどのような状況になっているのかを注視しております。市民は自分が住む地域のありようを気にかけるのです。そこで公共施設等総合管理計画を地区別に示し、検証・検討することも大切であり、必要であると考えますが、ご所見をお伺いいたします。

以上で1回目の質問といたします。

**○益子慎哉議長** 答弁を求めます。政策企画部長。

〔加瀬智明政策企画部長 登壇〕

**○加瀬智明政策企画部長** 常陸太田市まち・ひと・しごと創生総合戦略についての5つのご質問にお答えをいたします。

初めに、総合戦略に掲載をしております4つの基本目標それぞれに係る概要と実績、業績評価についてお答えをいたします。

基本目標1点目の、「本市の特性を活かした産業振興と安定した雇用の場を創出する」につきましては、起業・創業の促進、販路拡大を初めとした農業の販売力、生産力の向上等に係る各種事業を展開してございます。起業・創業の促進、中小企業等の基盤強化を図るため、新製品、新技術等開発支援や事業展示会等への出展による販路拡大支援、そして、合同就職面接会を、販路拡大を初めとした農業の販売力、生産力の向上を図るためにインターネットを活用した市の特産品等の販売促進や食品展示会等への出店による農産物等販路拡大の支援、そして新規就農者の支

援などに取り組んでおります。

主な事業の実績について申し上げますと、新商品、新技術等開発件数につきましては、目標値年間5件に対して実績は1件、起業・創業者数については、目標値年間5人に対し実績は2人、農産物の販路拡大事業実施件数については、目標値年間6件に対し実績は4件となっております。

基本目標2点目の、「本市への新しい人の流れをつくる」ことにつきましては、移住・定住の促進、観光振興等による交流人口の拡大等に係る各種事業を展開しております。移住・定住の促進を図るため、空き家バンク等の整備を初めとしたひたちお暮らし促進事業や民間賃貸住宅建築助成を、観光振興による交流人口の拡大を図るため、観光レンタカー利用促進事業や団体旅行誘致促進事業、そしてW i - F i 設置を初めとしたおもてなし推進事業などに取り組んでおります。

主な事業の実績について申し上げますと、空き家バンクを活用した移住世帯数につきましては、目標値年間2世帯に対し実績は1世帯、先行型交付金を活用いたしました建築助成事業により建築をした民間賃貸住宅へ入居をした世帯数につきましては、目標値年間20世帯に対し実績は25世帯、観光レンタカー利用者数につきましては、目標値年間500件に対し実績は132件となっております。

基本目標3点目の、「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」につきましては、安心して出産、子育てできる環境づくり等に係る各種事業を展開しております。安心して出産・子育てできる環境づくりを図るため、不妊・不育症治療費の助成や出産を控える方の無料相談を実施する助産師何でも相談事業、子ども夜間診療を初めとする安心子育て応援事業や妊産婦や小児を対象とする医療福祉費助成、そして保育料及び給食費の軽減などに取り組んでおります。

主な事業の実績について申し上げますと、年間出生数につきましては、目標値300に対して実績は215人、子ども夜間診療については、受診者数の目標値492件に対しまして実績は144件、助産師家庭訪問につきましては、利用件数の目標値年間150件に対し実績は127件となっております。

基本目標4点目の、「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」ことにつきましては、便利で魅力あるまちづくり等に係る各種事業を展開いたしております。便利で魅力あるまちづくりを図るため、公共交通の再編や東部地区土地区画整理事業による新たな市街地開発促進などに取り組んでおります。

実績でございますが、公共交通については昨年10月に再編を実施し、多様な交通モードを路線バスへ統一したところでございます。実施後4カ月で延べ7万3,006人の方々に利用いただき、1年に換算いたしますと延べ23万2,098人となり、再編前の利用者人員延べ23万2,089人とほぼ同数となっておりますので、予定どおり路線バスへの移行が進んでいる状況でございます。

また、新たな市街地開発につきましては、現在東部地区土地区画整理事業に係る準備会が結成され、協議を進めているところでございます。

今後の適正な進行管理を通しまして、地域における日常生活の利便性の向上に取り組むとともに

に、商業地機能の集積及び若い世代の雇用の場の創出に努めてまいりたいと考えております。

以上4つの基本目標それぞれに係る概要と実績についてご答弁を申し上げましたが、このまち・ひと・しごと創生総合戦略においては、少子化・人口減少対策アクションプランで定められた目標値でございます平成32年の常住人口5万人、年間出生数300人を目標といたしております。総合戦略策定後2年間の人口動向について申し上げますと、まず、年間出生者数につきましては、昨年215人でしたが、今年度は250人台を見込んでございます。また、転入、転出者数につきましては、昨年度転入者1,039人、転出者1,332人でしたが、現在の状況から今年度についても転入、転出者数ともほぼ同程度と見込んでございます。

以上のことから、今後におきましても少子化・人口減少に歯止めをかけるべく、さまざまな事業を展開してまいりたいと考えております。

最後に、進行管理の検証・検討体制と課題についてお答えをいたします。

総合戦略事業の進行管理につきましては、事業担当課において事業の実施状況、実施上の課題及び改善事項などを整理した上で内部評価を実施いたしまして、その内容を外部有識者会議において検証・検討をいたしております。この外部有識者会議は、さまざまな分野から意見をいただくため、産業界、教育界、金融界、メディア等の各分野から選出をし、常盤大学准教授を座長といたしまして10名の委員で構成をいたしており、今年度は昨年度に実施いたしました地方創生先行型交付金に係る10事業について昨年10月に会議を開催し、検証・検討行ったところでございます。検証結果につきましては、9事業について有効な事業とし事業継続を了承され、1事業インターネットを活用したひたちおた名産品販売促進事業でございますが、効果が薄いとしまして事業内容の見直しが必要とされました。この事業につきましては、既に事業方法の見直しを行っております。

なお、外部有識者による検証結果につきましては、国に報告するとともに、市ホームページにおいて公表いたしております。

また、少子化・人口減少対策アクションプランに掲載された重点的に取り組む事業につきましては、今年度新たに事業検証の取り組みといたしまして、重点事業進捗状況報告会を今年1月から2月にかけて毎週月曜日に計8回開催いたしまして、外部有識者会議同様に事業の検証・検討を実施したところでございます。来年度以降につきましても、外部有識者会議及び重点事業進捗状況報告会を継続して実施することにより、事業所管課による目標達成に向けた各事業の見直しを促すとともに、総合戦略の適正な進行管理に努めてまいります。

続きまして、常陸太田市公共施設等総合管理計画（案）の計画的な取り組みの推進についてのご質問にお答えをいたします。

初めに、公共施設等総合管理計画の具体的な実施計画についてでございますが、当計画は計画期間を平成29年度から平成68年度までの40年間と定めまして、計画の対象施設として、市内の建物系施設、インフラ系施設の全てを対象といたしております。また、計画の目標として、今後市内の公共施設を適切に維持管理していくために不足が見込まれます財源約500億円の縮減を掲げております。

この目標を達成するために、都市計画マスタープランや過疎地域自立促進計画等のまちづくり関連計画と連携した全庁で共有をいたします公共施設再配置の基本方針を策定することといたしております。さらに、基本方針の策定に当たりましては、既存のまちづくり関連計画の内容を踏まえながら、現在の公共施設の立地状況、今後の市街地の開発動向、地区別の人口動向、公共交通の運行状況、市民の通勤状況などを調査をいたしまして、その結果に基づき、公共施設再配置に係る各候補地を抽出することとしており、抽出結果に公民連携等を含めた候補地ごとの市民へのサービス方法を整理いたしまして、全庁で共有をいたします公共施設再配置の基本方針として取りまとめることといたしております。

次に、公共施設等総合管理計画の市民への周知についてでございますが、今後各地区において当該計画に係る説明会等を開催することといたします。その際に、市内公共施設の現状や今後の方向性等が市民に的確に伝わるよう、各公共施設の類型別立地状況のほか、地区別の立地状況、さらには人口ビジョンで示されました各地区の人口動向を踏まえた今後の公共施設配置の考え方を示すことといたしております。あわせて、市の広報等も積極的に活用することによりまして市民へ周知を図ってまいります。

○益子慎哉議長 平山議員。

〔8番 平山晶邦議員 質問者席へ〕

○8番（平山晶邦議員） ありがとうございます。2回目の質問をいたします。

1問目の質問の、常陸太田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の現在までの業績評価と検証・検討体制については理解をいたしました。これからも効果が上がる事業の推進をよろしく願います。

2問目の質問の、常陸太田市公共施設等総合管理計画（案）の取り組みの推進については、1点目の公共施設再配置の基本方針の策定については、ご答弁の中で、全庁で共有する公共施設再配置の基本方針として取りまとめるとのことですが、これはいつまでに取りまとめるお考えなのかをお伺いいたします。

○益子慎哉議長 答弁を求めます。政策企画部長。

○加瀬智明政策企画部長 再配置の基本方針でございますが、平成29年度の取りまとめを予定いたしております。

○益子慎哉議長 平山議員。

○8番（平山晶邦議員） 了解をいたしました。

2点目の市民への皆さんに対する周知については、ホームページとかインターネットも大切でございますが、やはり高齢の方が多いという地域では、市報等、目に見えるペーパーに落とした物も大切だと、このように考えておりますので、それらを含めて周知方、よろしく願いをいたします。理解をいたしました。

最後に、要望を申し上げて質問を終わりたいと思います。

私は、議会の質問等を通じていつも申し上げておりますのは、事実を客観的に分析して、それに対応していくことが大切であるということを申し上げております。人口ビジョンで示された分

析は、まだよく見ている分析かもしれませんが、地域間格差が今後顕著になってくる時代です。

40年の期間で分析すると、市民の皆様もまだぴんとこないかもしれませんが、例えば、今年常陸太田市に就職した方々が定年退職を迎えるときには、人口が1万8,000人になっているということなんです。そしてまた、ITが進行して人工知能やロボットに置きかえられたならば、きっと市役所の職員は150人前後の市役所になっているかもしれません。私たちの地域の40年を待たなくても、10年、20年後も想定できるわけであります。これからの未来は誰にもわからないわけですが、想定、予想はできます。行政と言えども、戦略、戦術を間違ってしまうと、地域間格差の負け組に入ってしまうます。

今回質問いたしました常陸太田市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、施設や事業面での柱であります。常陸太田市公共施設等総合管理計画（案）は効率的な行政を目指す柱になる計画でありましょう。市民の理解を得ながらスピード感ある計画の実施を望み、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。